

## 2018年度第3回支部集会【中国支部】

2018年10月20日(土)10:00-17:10(受付開始9:30)

岡山大学(津島キャンパス)

主催:公益社団法人日本語教育学会 共催:国立大学法人岡山大学

後援:岡山県・岡山市

会場:岡山大学(津島キャンパス) 文学部・法学部・経済学部 講義棟1階

住所:〒700-8530 岡山市北区津島中3丁目1番1号

交通アクセス: [https://www.okayama-u.ac.jp/tp/access/access\\_4.html](https://www.okayama-u.ac.jp/tp/access/access_4.html)

キャンパスマップ: [https://www.okayama-u.ac.jp/tp/access/soumu-access\\_tsushima\\_all.html](https://www.okayama-u.ac.jp/tp/access/soumu-access_tsushima_all.html)

参加費:500円 (当日会場にて現金でお支払いください)

※ご参加予定の方は、[学会ウェブサイトの「マイページ」](#) から10月18日までに事前参加登録をお願いいたします。事前参加登録方法について詳しくは、[こちら](#) をご覧ください。非会員の方も「マイページ」をご利用いただけます(年会費納入等は不要です)。

<注意>2018年度より予稿集は全て電子版となりました。事前参加登録をすると開催前に予稿集をダウンロードできます。事前参加登録をしなくても、会場での当日参加を受け付けますが、口頭発表・ポスターに関する紙媒体での予稿集配布はありませんので、ご自身でインターネットにつなぐことができるスマートフォン、タブレット、PC等を充電した状態でご持参ください(会場に参加者用の電源はありませんのでご注意ください)。

### 支部集会日程

9:30	受付開始	【文学部・法学部・経済学部講義棟 1階玄関】
10:00-10:10	開会式	【14番講義室】
10:15-11:15	研究発表(口頭発表)	【14番講義室】
11:20-12:50	研究発表(ポスター発表)	【17番講義室】
	交流ひろば	【13番講義室】
12:50-13:20	休憩	
13:20-15:50	パネルディスカッション	【14番講義室】
16:00-17:00	参加者交流会	【17番講義室】
17:00-17:10	閉会式	【14番講義室】

【10:00-10:10】開会式 会場:14番講義室

【10:15-11:15】 **研究発表(口頭発表)** 会場:14番講義室

※本発表は査読審査を経た学会発表です。発表要旨は本プログラム末尾、詳細は予稿集をご覧ください。

- ① 「日本語科目におけるメタ認知活性化活動の波及効果」  
長谷川順子(九州大学大学院生)
- ② 「日本語教師に求められる資質・能力とはー日本語教育能力検定試験を分析してー」  
宗林由佳(金城学院大学大学院生)

【11:20-12:50】 **研究発表(ポスター発表)** 会場:17番講義室

※本発表は査読審査を経た学会発表です。発表要旨は本プログラム末尾、詳細は予稿集をご覧ください。

- ① 「アニメを使ったクラス活動報告ーアウトプット能力の向上を目指してー」  
高村めぐみ(愛知大学)

【11:20-12:50】 **交流ひろば** 会場:13番講義室

- ① 「地域と留学生をつなぐ活動ー参加者すべてをWINにするー」  
長野真澄(環太平洋大学), 田村綾子(同), 大平真紀子(同)  
私たちは地域の各機関と連携し、留学生と地域をつなぐ活動をしています。主な内容は、①各種行事での地域の方々と留学生の交流、②留学生による学校支援ボランティア、③外国籍住民を対象とした日本語スピーチコンテストの実施です。皆様から様々なご意見をいただくことで、今後の活動の幅を広げ、ネットワークを拡大していければと思います。
- ② 「書評読解からお勧めの読み物紹介へー素材をどう解釈しどう取り込むのかー」  
衣川隆生(名古屋大学)  
中上級の学習者を対象に、書評の読解、そしてその書評を参考にしながらお勧めの読み物を紹介する発表、書評作成を行いました。学習者たちがどのように書評から表現を取り込み、自分の発表、書評作成に繋げていったかを紹介したいと思います。このような活動に興味ある皆さんとぜひ情報交換したいと思います。

【12:50-13:20】 **休憩**

【13:20-15:50】 **パネルディスカッション** 会場:14番講義室

## テーマ「地域に暮らす外国人の安心・安全を考える」

2017年末における在留外国人数は過去最高の256万人にのぼっており、外国人とともに暮らす町づくりが求められています。特に、様々な災害が日本各地で起こっている現状をふまえた時、外国人が安心して安全に暮らすことができるためにはどうすればよいかというのは喫緊の重要な課題であると言えます。「安心・安全な暮らし」の実現のためには、防災に加えて、防犯、交通、医療など、多くの課題が残されています。本パネルでは、様々な立場のパネリストの方々からの報告や提言をもとに、これらの課題の解決に向けて、今後、何が求められるかを参加者のみなさんと一緒に考えたいと思います。

### パネリスト:

河原 睦弘 (総社市人権まちづくり課国際・交流推進係)

中東 靖恵 (岡山大学)

片山 浩子 (岡山外語学院)

石井 丈司 (株式会社ラーンズ)

### 司会:

永田 良太 (広島大学)

【16:00-17:00】 **参加者交流会** 会場:17番講義室

参加者のみなさんで交流を行いましょう。ふるってご参加ください。この機会に、さまざまな情報交換を試みませんか。日本語のボランティアをこれから始めてみたいという方も大歓迎です。

【17:00-17:10】 **閉会式** 会場:14番講義室

◆問合先◆公益社団法人日本語教育学会 支部活動委員会  
〒101-0065 東京都千代田区西神田2-4-1 東方学会新館2F  
TEL:03-3262-4291 FAX:03-5216-7552 E-mail:shibu@nkg.or.jp

[2018 年度第 3 回支部集会(岡山大学), 2018.10.20, 口頭発表①]

### 日本語科目におけるメタ認知活性化活動の波及効果

長谷川順子

本研究では、自律的学習能力の涵養を目指した学部レベル留学生対象の日本語科目のコースデザイン改善への示唆を得ることを目的として、学習についてのメタ認知がその向上に役立つという前提のもとに、「学習ストラテジーの明示的提示」、「課題解決型学習の実行によるストラテジー利用機会の提供」、「内省活動の定期的実行」という活動を授業に組み入れた。その上で、コース実施中については学習者の内省文と発表者による学習者行動の観察により、他の科目や大学生活等への持続的波及効果についてはコース終了後 2 週間の時点と約半年後に行った半構造化面談調査結果に基づいて、学習者のメタ認知の変化を観察した。その結果、活動の影響には個人差や程度差が見られたが、日本語授業で得た経験や内省が科目の終了後も持続的に認識や行動に肯定的影響を与えていることが捉えられ、日本語科目の活動としての有効性が示されるとともに、改善への示唆が得られた。

(九州大学大学院生)

[2018 年度第 3 回支部集会(岡山大学), 2018.10.20, 口頭発表②]

### 日本語教師に求められる資質・能力とは

—日本語教育能力検定試験を分析して—

宗林由佳

日本語教育能力検定試験（以下、検定試験）は昭和 63 年に第一回が実施され、今年度で 31 回目となる。毎年 4,000 人を超える受験者数で合格率は 20%前後と超難関の試験だと言える。2 度の改訂を経て、出題範囲に基礎項目が設定され、優先的に出題されることとなった。こうして試験は改訂のたびに形を変えていったのだが、日本語教育における検定試験の位置づけは変わらず、試験に合格することの意義やその必要性は試験開始当初と変わっていない。しかし筆者は試験合格の重みを感じると同時に、この試験が日本語教師にどのような能力、資質を求めているのか、どのような能力を測っているのか疑問を持つようになった。本発表は、日本語教師に必要とされる資質・能力とは何か。検定試験問題の分析を通して考察する。

(金城学院大学大学院生)

[2018 年度第 3 回支部集会(岡山大学), 2018.10.20, ポスター発表①]

### アニメを使ったクラス活動報告

—アウトプット能力の向上を目指して—

高村めぐみ

従来のアニメを使った日本語の授業は、言語面の確認、内容理解、日本社会や文化の理解を目指すインプット活動が主で、アウトプット活動が十分に行われているとは言い難い。また、学習者の日本語力、興味・関心が大きく異なるクラスでは、インプット活動に困難を感じることもある。本研究では、まず、多様な日本語力、興味・関心を持つ学習者が、アニメのクラスで各自アウトプット能力を向上させることを目的に行った活動（①情景描写・心理描写、②ストーリーの再構築、③作文）を紹介する。次に、学習者のインタビューからわかったこと（「発言の機会が増えたこと」と「個々に能力が伸ばせること」を好意的にとらえているが、一方で「日本語力が乏しいためアウトプットが十分にできないこと」「日本語で情報を得ることができない場面では解決方法がなかったこと」については困難に感じている）について報告する。最後に、他の活動への応用について言及する。

(愛知大学)